本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

第 2 章　快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

第 3 章　リカバリと再インストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「再インストール」について説明しています。

第 4 章　困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

目次

本書をお読みになる前に 4

本書の表記 4

第 1 章　ご購入後の操作

1 セットアップ 8

Windows セットアップ 8

ネットワークの設定 11

ユーザー登録について 12

リカバリ CD-ROM 起動ディスクを準備する（CD-ROM ドライブなしモデルをお使いの場合） 12

ドライバのバックアップ 13

2 プレインストール仕様の確認 14

ソフトウェアー覧 14

デバイス一覧 16

ドライブ構成 19

3 インストール／アンインストール 21

添付ソフトのインストール 21

アンインストール 23

第 2 章　快適にお使いいただくために

1 コンピュータウイルス対策 26

VirusScan 26

コンピュータウイルスを発見した場合 27

コンピュータウイルスの被害届け 27

2 画面を設定する 28

解像度と色数について 28

マルチモニタ機能を使う（〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕） 29

3 省電力 32

スタンバイと休止状態 32

スタンバイ状態または休止状態からのレジューム 35

ACPI のスタンバイモードを設定する 36

省電力の設定 37

4 仮想メモリを設定する 38

5 ファイルシステムを変換する 39

第 3 章　リカバリと再インストール

1 リカバリ概要 42
リカバリの概要 42
リカバリの手順 42
留意事項 43
2 リカバリ操作 44
リカバリ前の準備 44
リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す） 44
リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す） 46
リカバリ終了後 49
3 ソフトウェアの再インストール 50
ドライバの再インストール 50
プレインストールソフトの再インストール 51

第 4 章　困ったときに

1 こんなときには 56
トラブル発生時の参照先 56
トラブルシューティング 56
2 それでも解決できないときは 63
お問い合わせ一覧 64
お問い合わせ前の確認シート 65
3 その他の留意事項 66

索引 73

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
▶	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
          ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- コマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］と表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

  ［CD-ROM ドライブ］:¥setup.exe

■ 画面例

本書に記載されている画面は一例です。実際に表示されるウィンドウやファイル名などとは異なる場合があります。ご了承ください。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」－「フロッピーディスク A」：使用しない

■ CD-ROM ドライブ

CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルの場合、各ドライブが必要な操作では、別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、『システム構成図』をご覧ください。

周辺機器の使用方法については周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2001 年 4 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（••▶『修理サービス網一覧表』参照）。

■ 製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記	
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me	Windows
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows 98	
Microsoft® Windows® 95 operating system	Windows 95	
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	Windows NT	
Microsoft® MS-DOS® operating system	MS-DOS	
VirusScan Ver.4.5.0 with SP1	VirusScan	
Adobe® Acrobat® Reader 4.05	Acrobat Reader	
ドライバーズ CD ／マニュアル CD	ドライバーズ CD	

■ 機種名表記

本文中の機種名表記は、次のようになっています。機種名を確認してください。

機種名	本文中の表記	
FMV-717GTX7	〔TX7〕	本パソコン パソコン本体
FMV-611GSL7e/610GSL7e	〔SL7e〕	
FMV-610GSL7/6866SL7/6766SL7c	〔SL7〕	
FMV-610GCL7/6866CL7/6766CL7c	〔CL7〕	
FMV-6750CL7s	〔CL7s〕	
FMV-6766ML7c	〔ML7〕	
FMV-6866CX7/6766CX7c	〔CX7〕	

モデル	本文中の表記
IDE-RAID 搭載	IDE-RAID モデル

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
VirusScan は、米国 Network Associates 社及び関連会社の商標又は登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第 1 章

ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

1 セットアップ 8
2 プレインストール仕様の確認 14
3 インストール／アンインストール 21

1 セットアップ

初めて電源を入れたあとに行う Windows の初期設定（Windows セットアップ）について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

Windows セットアップ

次の「留意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows セットアップを始めます。

■ 留意事項

- 本パソコンの電源を入れる前に、ディスプレイなどの接続を確認してください。
- Windows セットアップを行う前に、周辺機器を取り付けないでください（カスタムメイドオプションを除く）。
  Windows セットアップを行う前に周辺機器を取り付けると、Windows セットアップが正常に行われない場合があります。
- セットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示される場合があります。
- Windows セットアップ時に音が鳴るので、スピーカーを接続している場合はボリュームを調整してください。
- Windowsセットアップの各ダイアログボックスが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows セットアップが正常に行われない場合があります。ダイアログボックスが完全に表示されてから、マウスで操作してください。
- 電源を入れたあと、画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください（〔CX7〕除く）。
- 電源を入れた後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスが表示されることがあります。お使いのモニタに合わせたドライバをインストールしてください。

■ セットアップ

POINT

- Windows 2000 セットアップ中に「Windows 2000 Professional CD-ROM 上のファイル `xxxxx.xxx` が必要です。」というメッセージが表示されることがあります（xxxxx.xxx には courf.fon などのファイル名が入ります）。この場合は、「コピー元」に「c:¥support¥i386」と入力し、「OK」をクリックして、セットアップを始めてください。
  セットアップが完了したあと、「Windows 2000 Service Pack1 のインストール」（••▶ P.51）をご覧になり、Service Pack1 をインストールしてください。

1 本パソコンの電源を入れます（••▶『ハードウェアガイド』参照）。
しばらくすると、「Windows 2000 セットアップウィザードの開始」が表示されます。

2 「次へ」をクリックします。
「ライセンス契約」が表示されます。
「使用許諾契約書」は、本パソコンにあらかじめインストールされている Windows を使用するうえでの契約を記述したものです。

3 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

POINT

- 「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックしたあと、メッセージに従って操作してください。

「ソフトウェアの個人用設定」が表示されます。

4 「名前」と「組織名」を入力し、「次へ」をクリックします。
「コンピュータ名と Administrator のパスワード」が表示されます。

5 「コンピュータ名」、「Administrator のパスワード」と「パスワードの確認入力」を入力し、「次へ」をクリックします。
「ネットワークの設定」が表示されます。
ネットワークの設定については、セットアップ完了後にネットワーク管理者に確認し、ご使用の環境に合わせて設定してください（••▶ P.11）。

6 「標準設定」をクリックし、「次へ」をクリックします。

POINT

- 「標準設定」では、次のネットワークコンポーネントがインストールされます。
  - ・Microsoft ネットワーク用クライアント
  - ・Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
  - ・インターネットプロトコル（TCP/IP）

「ワークグループまたはドメイン名」が表示されます。

7 「このコンピュータはネットワーク上にないか、ドメインのないネットワークに接続している」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「Windows 2000 セットアップウィザードの完了」が表示されます。

8 「完了」をクリックします。

9 「再起動する」をクリックするか、または 15 秒待つと本パソコンが再起動します。
「ネットワーク識別ウィザードの開始」が表示されます。

重 要

- このとき、「戻る」をクリックしないでください。
  再設定が必要な場合は、設定終了後に該当個所を修正してください。

10 「次へ」をクリックします。
「このコンピュータのユーザー」が表示されます。

11 「ユーザーはこのコンピュータを ...」をクリックし、「次へ」をクリックします。

POINT

- 「ユーザーはこのコンピュータを ...」を選択した場合は、Windows 起動時に「Windows へログオン」ダイアログボックスが表示され、「常に次のユーザーがこのコンピュータに ...」を選択した場合は、「Windows へログオン」ダイアログボックスが表示されずに自動的にログオンされます。

「ネットワーク識別ウィザードの終了」が表示されます。

12 「完了」をクリックします。

「Windows へログオン」ダイアログボックスが表示されます。

13 手順 5 で入力したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

「Windows 2000 の紹介」ダイアログボックスが表示されます。

POINT

- 本パソコンでは、「Windows 2000 の紹介」ダイアログボックスにある「Windows について」をクリックすると、「Windows 2000 CD が見つかりません」と表示されます。この場合は「キャンセル」をクリックしたあと、「ディスカバーツアーが見つかりません」ダイアログボックスで「c:¥support¥discover」と入力し、「OK」をクリックしてください。

14 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

15 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。

Windows が再起動し、「Windows へログオン」ダイアログボックスが表示されたら、ログオンしてください。

これで、Windows セットアップが完了しました。

■ セットアップ後

〔SL7〕〔CL7〕をお使いの場合は、次のドライバのインストールを行ってください。
ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。

ドライバ	インストール手順の保存場所とファイル名
IDE ドライバ	C:¥Ata100¥ReadmeJ.txt
日本語 PS/2 キーボード (100/109 キー Ctrl ＋英数)	C:¥Doc¥Install.txt
Fujitsu 3-mode floppy Controller (Type 00)	
Fujitsu 3-mode floppy disk drive	

カスタムメイドオプションでアプリケーションを選択している場合は、『アプリケーション補足説明書』をご覧ください。

ネットワークの設定

Windows セットアップ後に、お使いのネットワーク環境に合わせて、次の手順に従って設定を行ってください。また、〔TX7〕およびセキュリティ LAN をお使いで、セキュリティ通信を行う場合には、ネットワークの設定を行ったあと、IP セキュリティポリシーを割り当てる必要があります。設定方法は、Windows のヘルプをご覧ください。

■ ネットワークコンポーネントのインストール

POINT

- 使用するネットワークコンポーネントについては、ネットワーク管理者に確認してください。

1 「マイネットワーク」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウが表示されます。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「インストール」をクリックします。
「ネットワークコンポーネントの種類の選択」ダイアログボックスが表示されます。

4 設定するネットワークコンポーネントを選択し、「追加」をクリックします。
このあとは、メッセージに従って設定を行います。

■ ネットワーク ID の設定

POINT

- 設定するネットワーク ID（コンピュータ名やドメイン名など）については、ネットワーク管理者に確認してください。

1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ネットワーク ID」タブをクリックします。

3 「ネットワーク ID」または「プロパティ」をクリックし、コンピュータ名やユーザー名の設定を行います。

ユーザー登録について

本パソコンのユーザー登録は、2001 年 5 月頃から弊社 Web サイトで行えるようになります。詳しくは、「FM WORLD.NET」（http://www.fmworld.net/）にてご案内する予定です。ご了承ください。

リカバリ CD-ROM 起動ディスクを準備する（CD-ROM ドライブなしモデルをお使いの場合）

CD-ROM ドライブなしモデルを使用する場合は、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の作成と設定を必ず行ってください。

■ リカバリ CD-ROM 起動ディスクの作成

あらかじめ作成用のフロッピーディスクとラベルを 1 枚ずつ用意してください。
作成方法は次のとおりです。

1. CD ブートができる別のパソコンに、本パソコンの「リカバリ CD-ROM1/3」をセットして CD-ROM から起動します。
   CD-ROM からの起動方法については、お使いのパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

2. 「起動エラー」のメッセージが表示されたら、【Esc】キーを押します。
   メニューが終了し、コマンドプロンプトになります。

3. 次のように入力し、【Enter】キーを押します。
   ```
   makefd
   ```

4. 「リカバリ起動ディスクを作成します。」のメッセージが表示されたらフロッピーディスクをセットして、【Enter】キーを押します。
   フォーマットが始まり、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」が作成されます。

■ リカバリ CD-ROM 起動ディスクの設定

1. 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」に CD-ROM ドライブのファイルをコピーします。
   コピーするファイルについては、お使いになる CD-ROM ドライブに添付されているマニュアルなどを参照してください。

2. Config.sys を修正します。
   「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の「A:¥Config.sys」の該当箇所（XXXXXXXX）を使用するドライバ名に変更してください。
   ```
   DEVICE=XXXXXXXX.SYS  /D:OEMCD001
   ```

3. 作成したフロッピーディスクに、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」と記入したラベルを貼り、書き込み禁止の状態にします。

ドライバのバックアップ

本パソコンに添付の「ドライバーズ CD」から、「バックアップディスク」を作成します。
「バックアップディスク」は、ドライバのインストールに使用します。

■ バックアップの内容

ソフトウェア名称	機種	フロッピーディスクの枚数	入力するフォルダ名
Promise FastTrak100 IDE RAID Driver	IDE-RAIDモデル	1	w2k¥raid¥drv

次のものを用意してください。

- ドライバーズ CD
- 1.44MB 2HD フロッピーディスク（上記の表を確認し、必要な枚数を購入してください）
- フロッピーディスクのラベル（必要な枚数を購入してください）

■ バックアップ方法

1 「ドライバーズ CD」とフロッピーディスクをセットします。

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

3 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
format  a:
```

4 【Enter】キーを押します。
フォーマットが終了すると、ラベルの入力メッセージが表示されます。

5 【Enter】キーを押します。

6 【N】キーを押し、【Enter】キーを押します。

7 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
cd  /d  [CD-ROMドライブ]:¥w2k¥raid¥drv
```

8 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
xcopy  *.*  a:  /s  /e  /h
```

9 作成したバックアップディスクに、ソフトウェア名称を記入したラベルを貼り、書き込み禁止の状態にします。
ソフトウェア名称は上記の表で作成したものを記入してください。

2 プレインストール仕様の確認

Windows セットアップが終了した時点での本パソコンの環境は、次のとおりです。

POINT

- 各ドライバおよびソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

ソフトウェア一覧

■ プレインストールソフト

名称	備考
Microsoft Windows 2000 Professional（Service Pack 1）	「C:¥Winnt」フォルダにインストールされています。操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプか、添付されている『Microsoft® Windows® 2000 Professional クイックスタートガイド』をご覧ください。
Internet Explorer 5.01	WWW ブラウザです。
Microsoft IME 2000	日本語入力変換ユーティリティです。
Direct X8.0	マルチメディアの機能を拡張します。Direct X8.0 に対応したソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現します。
Windows 環境調査ツール（FM Advisor）	本パソコンの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます（••▶ P.56）。
Acrobat Reader	PDF（Portable Document Format）書類を表示、閲覧、印刷できます。
富士通 3 モードフロッピーディスクドライバ	1.44MB、1.23MB、1.2MB、720KB、640KB のフロッピーディスクを読み書きできる 3 モード対応のフロッピーディスクドライブ用のドライバです。
光磁気ディスク・ユーティリティ（〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕）	光磁気ディスクのフォーマットやフォーマット／イジェクト権限の変更を行うユーティリティです。IDE-RAID モデルを除きます。
FMV 診断	ハードウェアの故障箇所を的確に診断します（••▶ P.56）。
Encryption Pack	現時点で最強な 128 ビット暗号化を使用して情報を保護します。

名称	備考
Fast Check Monitoring Utility （IDE-RAID モデルのみ）	ディスクアレイやハードディスク情報の表示、一貫性チェックなどの RAID の管理を行うためのユーティリティです。
Easy CD Creator ※	データ CD や音楽 CD を作成するためのアプリケーションです。使用方法はアプリケーション内のヘルプをご覧ください。
DirectCD ※	CD-R や CD-RW に直接データを書き込むためのアプリケーションです。使用方法はアプリケーションのヘルプをご覧ください。

カスタムメイドオプションのアプリケーションについては添付の『アプリケーション補足説明書』や各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください（••▶ P.23）。
※：カスタムメイドオプションで CD-R/RW ドライブを選択している場合

■ 添付ソフト（未インストール）

POINT

- 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。
- 〔TX7〕およびセキュリティ LAN を搭載している場合、「Packet Protect」が添付されますが、本パソコンでは使用しません。
- 選択したカスタムメイドオプションによっては、この他にソフトウェアが添付されることもあります。

インストール方法は、「添付ソフトのインストール」（••▶ P.21）をご覧ください。

名称	備考
VirusScan	コンピュータウイルスを検出・駆除します （••▶ P.26）。
DeskView	パソコンのメモリ、ハードディスクなどの資産の情報を表示したり、パソコンを監視し発生した異常を参照できます。また、パソコンの電源を制御できます。
FM-Menu	ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。
光磁気ディスク・ユーティリティ （〔CL7s〕〔CX7〕と IDE-RAID モデルのみ）	光磁気ディスクのフォーマットやフォーマット／イジェクト権限の変更を行うユーティリティです。
はじめよう！インターネット （@nifty）	インターネットのプロバイダである @nifty に入会できます。
WinDVD ※	映画や音楽などのDVDソフトを再生するアプリケーションです。インストール方法は、WinDVD が収録されている CD-ROM 内の install.txt をご覧ください。

※：カスタムメイドオプションで DVD-ROM ドライブを選択している場合

デバイス一覧

POINT

- 本パソコンの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。その際、デバイス名称などが本書の記述と異なる場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

デバイス	名称	備考
DVD/CD-ROM ドライブ	〔TX7〕 MATSHITA CD-ROM CR-594 SCSI CdRom Device 〔SL7e〕〔SL7〕 MATSHITA CD-ROM CR-594 または SAMSUNG CD-ROM SC-140P 〔CL7〕 TEAC CD-224E 〔CL7s〕 NEC CD-ROM DRIVE:282 または TEAC CD-224E 〔ML7〕 MATSHITA CD-ROM CR-594 または SAMSUNG CD-ROM SC-140P 〔CX7〕 MATSHITA CD-ROM CR-1760	〔TX7〕では、SCSI CdRom Device と表示されますが、動作上は問題ありません。
	〔TX7〕 MATSHITA CD-RW CW-7585 SCSI CdRom Device 〔SL7e〕 MATSHITA CD-RW CW-7585 〔SL7〕〔ML7〕 MATSHITA CD-RW CW-7585 または _NEC NR-7500A 〔CL7〕〔CL7s〕〔CX7〕 MATSHITA UJDA310	CD-R/RW ドライブ （カスタムメイドオプション） 〔TX7〕では、SCSI CdRom Device と表示されますが、動作上は問題ありません。
	〔CL7〕 MATSHITA DVD-ROM SR-8175 SCSI CdRom Device	DVD-ROM ドライブ （カスタムメイドオプション）
IDE ATA/ATAPI コントローラ	〔TX7〕 Intel(r) 82801 BA Ultra ATA Controller Ultra ATA Channel 〔SL7e〕〔ML7〕 Intel(r) 82801AA Bus Master IDE Controller セカンダリ IDE チャネル プライマリ IDE チャネル 〔SL7〕〔CL7〕 Intel(r) 82801 BA Ultra ATA Controller Ultra ATI Channel Ultra ATI Channel 〔CL7s〕 VIA Bus Master IDE Controller 〔CX7〕 Intel(r) 82801AA Bus Master IDE Controller プライマリ IDE チャネル	〔TX7〕〔SL7〕でデバイスドライバをインストールしていない場合、異なった名称が表示されます。ドライバのインストール（••▶ P.10）を必ず行ってください。
PCMCIA アダプタ	〔CX7〕 Texas Instruments PCI-1420 CardBus Controller	

デバイス	名称	備考
SCSI と RAID コントローラ	〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕 Symbios Logic 8100S PCI SCSI Adapter; 53C810 Device	SCSI カード （カスタムメイドオプション）
	IDE-RAID モデル Win2000 Promise FastTrak100 (tm) Controller	IDE-RAID カード
USB（Universal Serial Bus）コントローラ	〔TX7〕〔SL7〕〔CL7〕 Intel(R) 82801 BA/BAM USB Universal Host Controller-2442 Intel(R) 82801 BA/BAM USB Universal Host Controller-2444 USB ルートハブ USB ルートハブ 〔SL7e〕〔ML7〕〔CX7〕 Intel(r) 82801AA USB Universal Host Controller USB ルートハブ 〔CL7s〕 VIA USB Universal Host Controller USB ルートハブ	
キーボード	日本語 PS/2 キーボード（106/109 キー Ctrl + 英数）	〔TX7〕〔SL7〕でデバイスドライバをインストールしていない場合、異なった名称が表示されます。ドライバのインストール（••▶ P.10）を必ず行ってください。
コンピュータ	ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) PC	
サウンド、ビデオ、およびゲーム コントローラ	〔TX7〕〔ML7〕 SoundMAX Integrated Digital Audio 〔CX7〕 Crystal SoundFusion(tm) CS4281 WDM Audio 〔SL7e〕〔CL7s〕 Crystal WDM Audio Codec 〔SL7〕〔CL7〕 Crystal WDM Audio Codec オーディオ CODEC ビデオ CODEC メディアコントロール デバイス レガシ オーディオ ドライバ レガシ ビデオ キャプチャ デバイス	
スマートカード読み取り装置	〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕 Fujitsu-Siemens Serial Smart Card Reader	スマートカードリーダ （カスタムメイドオプション）
ディスクドライブ	〔TX7〕〔SL7〕〔CL7〕 Maxtor 5 T060H6 SCSI Disk Drive 〔SL7e〕〔CL7s〕 Maxtor 5 T060H6 〔ML7〕〔CX7〕 FUJITSU MPG3408AT E	60GB（〔ML7〕〔CX7〕以外） 40GB（〔ML7〕〔CX7〕） （カスタムメイドオプション）
	〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔ML7〕 FUJITSU MCE3130AP FUJITSU MCE3064AP	光磁気ディスクドライブ （上段：1.3GB、下段：640MB） （カスタムメイドオプション）
	IDE-RAID モデル Promise 1/2 Mirror/RAID1 SCSI Disk Device	IDE-RAID

デバイス	名称	備考
ディスプレイ アダプタ	〔TX7〕 RADEON AGP 〔SL7e〕 Rage 128 Ultra 4XL 〔SL7〕〔CL7〕 Intel(R) 82815 Graphics Controller 〔ML7〕〔CX7〕 Intel(R) 82810E Graphics Controller 〔CL7s〕 S3 Graphics Inc. ProSavage	解像度／色数（〔CX7〕以外）： 800 × 600/High Color（16 ビット） 解像度／色数（〔CX7〕）： 1024 × 768/High Color（16 ビット） リフレッシュレート： 60 ヘルツ
ネットワーク アダプタ	〔TX7〕〔SL7e〕〔CX7〕 Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100) 〔SL7〕〔CL7〕 Intel(R) PRO/100 VM Desktop Adapter 〔CL7s〕〔ML7〕 Realtek RTL 8139(A/B/C/8130)PCI Fast Ethernet NIC	
フロッピーディスク コントローラ	Fujitsu 3-mode floppy controller (Type 00)	〔TX7〕〔SL7〕でデバイスドライバをインストールしていない場合、異なった名称が表示されます。ドライバのインストール（••▶ P.10）を必ず行ってください。
フロッピーディスク ドライブ	Fujitsu 3-mode floppy disk drive	1.44MB/1.23MB/1.2MB/720KB/640KB の各容量のフロッピーディスクを読み書きできます。 〔TX7〕〔SL7〕でデバイスドライバをインストールしていない場合、異なった名称が表示されます。ドライバのインストール（••▶ P.10）を必ず行ってください。
ポート （COM と LPT）	〔TX7〕 プリンタポート（LPT1） 通信ポート（COM1） 通信ポート（COM2） 〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕〔CX7〕 プリンタポート（LPT1） 通信ポート（COM1）	カスタムメイドオプションでスマートカードリーダをお使いの場合は、スマートカードのソフトウェアの設定終了後に、通信ポート（COM2）が表示されます。（〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕）
マウスとそのほかの ポインティングデバイス	PS/2 互換マウス	

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	約 4GB	FAT32
D	〔総容量〕－〔C ドライブの容量〕	NTFS
E	CD-ROM（CD-R/RW または DVD-ROM）※ドライブ	CD-ROM（CD-R/RWまたはDVD-ROM）搭載時
F	光磁気ディスクドライブ	（カスタムメイドオプション：CD-ROM ドライブがない場合は E ドライブ）

※カスタムメイドオプションの場合は選択したドライブ

■ DMA の設定

デバイス	プライマリ		セカンダリ	
	0	1	0※1	1
〔TX7〕	●	○	○	○
IDE-RAID モデル	○	○	○	－
〔SL7e〕	●	○	○	○
IDE-RAID モデル	－	－	○	－
〔SL7〕	●	○	○	○
〔CL7〕	●		○※2	－
〔CL7s〕	●	－	×	－
〔ML7〕	●	○	○	○
〔CX7〕	●	×	－	－

●：ご購入時 DMA 設定
○：DMA 設定可
×：DMA 設定不可
－：増設不可
※1：カスタムメイドオプションで光磁気ディスクドライブをお使いの場合は、DMA の設定はできません。
※2：カスタムメイドオプションで CD-R/RW ドライブをお使いの場合は、DMA の設定はできません。

□〔TX7〕〔SL7〕〔CL7〕の場合

設定方法については、「ドライバーズ CD」の「¥W2k¥IdeDrv¥Inst_2k.txt」をご覧ください。

□〔SL7e〕〔CL7s〕〔ML7〕〔CX7〕の場合

1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。

3 「IDE ATA/ATAPI コントローラ」をダブルクリックします。

4 「セカンダリ IDE チャネル」または「プライマリ IDE チャネル」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

5 「プライマリ（またはセカンダリ）IDE チャネルのプロパティ」ダイアログボックスの「詳細設定」タブをクリックします。

6 「DMA の設定」の表を参照して設定を変更し、「OK」をクリックします。
なお、カスタムメイドオプションの光磁気ディスクドライブは、「DMA の設定」の表で○になっていても DMA に設定しないでください。

3 インストール／アンインストール

Windows セットアップの終了後、必要がある場合には、次の方法でソフトウェアのインストールやアンインストールを行ってください。

添付ソフトのインストール

■ VirusScan のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROM ドライブ]:¥w2k¥vsnt¥setup.exe

インストールが始まります。次の POINT を参照し、メッセージに従って操作してください。

POINT

- 「サービスアカウント情報」ダイアログボックスでは、Administrators グループの「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。

■ DeskView のインストール

インストール手順については、「ドライバーズ CD」内の「¥Update¥Etc¥Deskview¥Read1st.txt」をご覧ください。

■ FM-Menu のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROM ドライブ]:¥w2k¥fmmenu¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ 光磁気ディスク・ユーティリティのインストール

POINT

- 〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕にはプレインストールされています。ただし、IDE-RAID モデルは除きます。

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥w2k¥moformat¥moformat.msi

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ はじめよう！インターネット（@nifty）のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥w2k¥niftysgn¥niftysgn¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

アンインストール

■ 留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に気を付けてください。

- 起動中のアプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない
  DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
  アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する
  「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

Memo

第 2 章

快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや画面の設定方法などについて説明しています。

1 コンピュータウイルス対策 26
2 画面を設定する 28
3 省電力 32
4 仮想メモリを設定する 38
5 ファイルシステムを変換する 39

1　コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの 1 つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

VirusScan

本パソコンにはウイルスを発見するためのソフトとして、VirusScan が添付されています。入手したフロッピーディスクや光磁気ディスクなどは、ウイルスチェックを行ったうえで使用してください。VirusScan の使用方法については、ヘルプをご覧ください。
VirusScan はご購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールしてください（••▶ P.21）。

■ 留意事項

- 「VirusScan」を起動していると、アプリケーションを正常にインストールできなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のどちらかの方法で「VirusScan」を使用不可にしてください。
  - ・「スタート」ボタン→「プログラム」→「Network Associates」→「VirusScan コンソール」の順にクリックします。「VirusScan コンソール」ウィンドウで「VShield」をクリックし、「タスク」メニュー→「使用不可」の順にクリックします。
  - ・「VirusScan」アイコンがタスクバーに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「終了」をクリックします。
- VirusScan でコンピュータウイルス検査を行っているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
- 本パソコンをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてから使用してください。
- VirusScan は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイル（DAT ファイル）と、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。DAT ファイルは次のサイトから無料でダウンロードできます。定期的に更新してください。
  http://www.nai.com/japan/
  スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の VirusScan をご購入ください。

コンピュータウイルスを発見した場合

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

重 要

- **コンピュータウイルスに感染してしまい、本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。**

コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 951 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（http://www.ipa.go.jp/security/）。

2 画面を設定する

ここでは、ディスプレイの解像度と色数を変更する方法とマルチモニタ機能について説明します。

解像度と色数について

本パソコンでは、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます（次の設定以外はサポート外となります）。
なお、High Color は 65,536 色、True Color（24 ビット、32 ビット）は 16,777,216 色です。

解像度（ピクセル）	色数	〔TX7〕	〔SL7e〕	〔SL7〕	〔CL7〕	〔CL7s〕	〔ML7〕	〔CX7〕
640 × 480	256 色 High Color（16 ビット）	○	○	○	○	○	○	○
	True Color（24 ビット）	×	×			×		
	True Color（32 ビット）	○	○	×	×	○	×	×
800 × 600	256 色 High Color（16 ビット）	○	○	○	○	○	○	○
	True Color（24 ビット）	×	×			×		
	True Color（32 ビット）	○	○	×	×	○	×	×
1024 × 768	256 色 High Color（16 ビット）	○	○	○	○	○	○	○
	True Color（24 ビット）	×	×			×		
	True Color（32 ビット）	○	○	×	×	○	×	×
1280 × 1024	256 色 High Color（16 ビット）	○	○※	○※	○※	○	○	×
	True Color（24 ビット）	×	×			×		
	True Color（32 ビット）	○	○※	×	×		×	
1600 × 1200	256 色 High Color（16 ビット）	○	×	×	×	×	×	×
	True Color（24 ビット）	×						
	True Color（32 ビット）	○						

※：デジタルディスプレイ（DVI 出力）では、表示できません。

POINT

- 設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を高くすると、設定できる色数は少なくなります。
- 解像度／色数を変更する場合は、必ず起動中のアプリケーションや常駐しているソフトウェアをすべて終了させてから行ってください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。再起動しない場合、本パソコンの動作が不安定になる場合があります。
- 色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切なリフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください（〔CX7〕除く）。
- ディスプレイによって、設定できる解像度が異なります。詳細はディスプレイの取扱説明書をご覧ください（〔CX7〕除く）。

マルチモニタ機能を使う（〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕）

Windows には、1 台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここでは、例として、2 台のディスプレイでマルチモニタ機能を使う方法を説明します。

□留意事項

- グラフィックスカードを選ぶときは次の点にご注意ください。
  - ・本パソコンには AGP の空きスロットがないため、AGP 規格のグラフィックスカードは使用できません。
  - ・Windows 2000 に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されているディスプレイドライバがマルチモニタ機能に対応していない場合があります。
    マルチモニタ機能に対応しているかどうかを製造元のメーカーにお問い合わせください。
- マルチモニタ機能を使用する前に BIOS セットアップで次の項目を設定してください。
  - ・〔TX7〕…「Main」－「Boot Options」－「Primary Display」：AGP VGA
  - ・〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕…「詳細」－「ディスプレイ設定」－「プライマリディスプレイ」：Onboard
  - ・〔CL7s〕…「詳細」－「内蔵デバイス設定」－「プライマリディスプレイ」：Onboard
  - ・〔ML7〕…「Main」－「Boot Options」－「Primary Display」：Onboard VGA
- 自己診断（POST）時、セーフモード時、VGA モード時などのマルチモニタ機能が有効ではない状態では、プライマリアダプタに接続したディスプレイに画面が表示されます。
- 〔TX7〕〔ML7〕では、複数のグラフィックスカードを増設した場合、PCI スロットの番号が小さい順にアダプタが割り当てられます。〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕では、大きい順に割り当てられます。

□用意するもの

- マルチモニタ機能に対応している PCI 規格のグラフィックスカード
- マルチモニタ機能対応のディスプレイドライバ（Windowsにあらかじめ登録されていないグラフィックスカードの場合）
- ディスプレイ

■ グラフィックスカードとディスプレイを接続する

グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

1. グラフィックスカードを本パソコンに取り付けます（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

2. 取り付けたグラフィックスカードに、ディスプレイを接続します。
   接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。

3. ディスプレイの電源ケーブルを接続します。
   接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

4. 本パソコンの電源を入れます。

5. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
   グラフィックスカードが自動的に検出され、ディスプレイドライバがインストールされます。Windows にあらかじめ登録されていないグラフィックスカードの場合は、メッセージに従ってグラフィックスカードに添付されているディスプレイドライバをインストールします。

6. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

7. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
   「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

8. 「ディスプレイアダプタ」をダブルクリックし、取り付けたグラフィックスカードが表示されていることを確認します。

9. すべてのダイアログボックスを閉じます。

■ マルチモニタ機能を設定する

続いて、次の操作を行いマルチモニタ機能を有効にしてください。

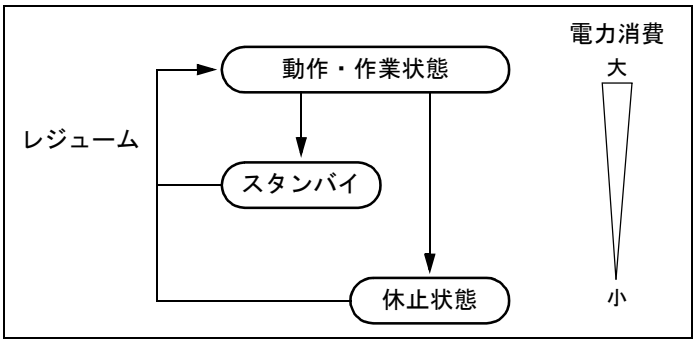
1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックします。
3. 「2」のディスプレイをクリックします。
4. 「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックします。
5. 接続したディスプレイの解像度と色数を設定します。
6. 「適用」をクリックし、「OK」をクリックします。

3 省電力

省電力について説明します。ご購入時、本パソコンは ACPI（Advanced Configuration and Power Interface）モードに設定されています。
ここでは、ACPI モードに関する留意事項と、スタンバイモードの変更方法（••▶ P.36）を説明します。

スタンバイと休止状態

「スタンバイ」または「休止状態」を使用することにより、Windows を終了することなく節電することができます。



- **スタンバイ**
  実行中のプログラムやデータを、システム RAM（メモリ）に保持してパソコンの動作を一時停止させます。スタンバイ中は、電源ランプまたはスリープランプがオレンジ色に点灯します（••▶『ハードウェアガイド』参照）。「休止状態」よりも短い時間で、一時停止や再開（レジューム）を行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。
- **休止状態**
  実行中のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切ります。電源を自動的に切るため、「スタンバイ」よりも一時停止／再開（レジューム）にかかる時間が長くなります。なお、休止状態に入るようにするには、「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスで設定する必要があります（••▶ P.37）。

■ 留意事項

- パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にしたあと、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 電源スイッチなどで本パソコンをスタンバイにしても、まれにすぐにレジュームすることがあります。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。

- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- スタンバイ時／休止状態移行時／レジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイ状態に移行させると、スタンバイ状態および休止状態にならない／スタンバイ状態および休止状態からレジュームしない／レジューム後に正常に動作しない／データが消失する問題が発生することがあります。
  - ・OS の起動処理中または終了処理中
  - ・パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
  - ・ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中）
  - ・モデムやネットワークの通信中
  - ・オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
  - ・ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
  - ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
  - ・サウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT　形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
  - ・CD-R や CD-RW に書き込みまたは書き換え中
  - ・ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、ドライバのインストールが終了していないとき
  - ・ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
  - ・マウスの操作中
  - ・ACPI に対応していないオプション（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、『ハードウェアガイド』をご覧ください。
- オプションがACPIに対応している必要があります。ACPIに対応していないオプションを接続すると、オプションが使用できなくなる、またはスタンバイモードからレジュームできなくなる場合があります。事前にオプションが ACPI モードに対応しているかどうかをオプションのメーカーに確認してください。
  なお、最新ドライバに変更することで ACPI に対応できるオプションもあります。詳細はオプションのメーカーに確認してください。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。
- CD-ROM読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- コマンドプロンプトを全画面表示で使用しているときにスタンバイ状態に移行すると、スタンバイ状態から復帰したときにコマンドプロンプトの全画面表示が解除されていることや、画面が乱れて表示されることがあります。
  この場合、タスクバーの「コマンドプロンプト」部分をクリックすると、コマンドプロンプトの全画面表示に戻ります。また、【Alt】＋【Enter】キーを押すと、コマンドプロンプトの全画面表示が解除され、画面の乱れがなくなります。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。
- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、スタンバイ状態および休止状態は使用できません。

- ネットワーク環境でLAN着信によるレジューム（Wakeup on LAN機能）を使用すると、ホストコンピュータもしくは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。なお設定値が20分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20分以上の値に設定してください。
  1.「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」アイコンをダブルクリックします。
  「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  2.「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「20分後」以上に設定します。
- TCP/IPの設定でDHCPが有効の場合、スタンバイ時にDHCPサーバから割り当てられたIPアドレスのリース期限が切れたとき、パソコン本体がレジュームすることがあります。
  この場合は、DHCPサーバのIPアドレスのリース期間を延長するか、またはDHCPの使用を中止し固定IPをご使用ください。
- プリンタなどの周辺装置を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺装置の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- スタンバイ状態または休止状態へ移行させる時は、電源スイッチや「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「スタンバイ」または「休止状態」を選択して強制的にスタンバイ状態にさせず、「電源設定」タブの「システムスタンバイ」または「システム休止状態」で移行するまでのアイドル時間（たとえば「30分後」）を設定することをお勧めします。これにより、ファイルアクセス中や通信中などにスタンバイ状態および休止状態への移行を回避できます。
- スタンバイ状態へ移行する際、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ダイアログボックスが表示されて、スタンバイ状態へ移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに入れない状態を示します。スタンバイ状態へ移行させるためには、動作中のプログラムを終了させてください。
- ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の条件下では、使用するプロトコルやアプリケーションによっては、不具合（スタンバイおよび休止状態からの復帰時に正常に通信できないなど）が発生することがあります。
  ・TCP/IPプロトコル以外のプロトコルを使用している場合
  ・ネットワーク環境で通信中に、手動（電源スイッチを押す、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「スタンバイ」を選択する、などの操作）によりスタンバイおよび休止状態に移行した場合
  ・ネットワーク上でファイルの共有を設定し、手動（電源スイッチを押す、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「スタンバイ」または「休止状態」を選択するなどの操作）によりスタンバイ状態へ移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合
  「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。
  xxxxxx(¥¥yyyyy)
  このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか？」
- 「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。
- 〔SL7e〕でマルチモニタをお使いの場合は、省電力機能は使用できません。

- 〔ML7〕の場合、お使いのディスプレイによってはレジューム時に画面が表示されないことがあります。この場合、キーボードから入力するか、マウスを動かすと表示されます。
- 〔ML7〕の場合、高度（ACPI S3）のスタンバイ状態からレジュームすると、画面が表示されないことがあります。この場合、キーボードから入力するか、マウスを動かすと表示されます。

スタンバイ状態または休止状態からのレジューム

■ スタンバイ状態および休止状態からのレジューム条件

ACPI モードの標準（ACPI S1）／高度（ACPI S3）のスタンバイ状態および休止状態から、次の表で○になっているレジューム要因で通常の状態にレジュームさせることができます。

レジューム要因	ACPI モード標準（ACPI S1）	ACPI モード高度（ACPI S3）※8	休止状態
電源スイッチ※1	○	○	○
PS/2 キーボード、PS/2 マウス	○※6	×	×
USB キーボード、USB マウス	○※7	○※9（〔CX7〕のみ×）	×（〔TX7〕〔ML7〕のみ○）
時刻指定※2	○	○	○
LAN※3	○	○	○
モデム着信（Ring Indicator 信号）※4	○	○	○※10
PCI 拡張カード（PME# 信号）※5	○	○	○

※1：「コントロールパネル」ウィンドウ－「電源オプション」－「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「電源オフ」に設定した場合でも、電源スイッチを押すとスタンバイ状態からレジュームします。

※2：「タスク」を使用した場合

※3：「デバイスマネージャ」－「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの次の項目をチェックする必要があります。
・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」
・「電源の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」

※4：通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

※5：PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード（PCI Revision 2.2 規格に準拠）を搭載した場合

※6：「デバイスマネージャ」－「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。
・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」
ただし、「電源の管理」タブが表示されない場合があります。その場合は、設定できません。
また〔ML7〕の場合、PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのどちらか一方でも下記の設定を有効にした場合、PS/2 キーボード、PS/2 マウスのどちらでもスタンバイ状態から復帰するようになります。

※7：「デバイスマネージャ」－「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。
・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」

※8：IDE-RAID モデルは、ACPI S3 は使用できません。

※9：〔SL7e〕の場合、BIOS セットアップで次の通り設定する必要があります。
「省電力」－「ACPI 設定」－「スタンバイモード」: 高度
「省電力」－「ACPI 設定」－「USB デバイスによるウェイクアップ」: 使用する
また、「デバイスマネージャ」－「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。
・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」

※10：〔CL7s〕の場合、BIOS セットアップでの設定が必要となります（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

ACPI のスタンバイモードを設定する

ACPI のスタンバイモードには、次の 2 種類があります。

- 標準（ACPI S1）… CPU の動作を停止します。
- 高度（ACPI S3）…メモリ以外の装置の動作を停止します。標準（ACPI S1）と比較し、省電力に優れる一方で通常の状態への復帰には時間がかかります。

ご購入時には、高度（ACPI S3）に設定されています（IDE-RAID モデルを除く）。標準（ACPI S1）に設定する方法は、次のとおりです。

POINT

- 増設する周辺機器はすべて高度（ACPI S3）に対応している必要があります。
  対応していない周辺機器を接続する場合は、標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。
- IDE-RAIDモデルは高度(ACPI S3)に対応していません。標準(ACPI S1)でお使いください。

1 BIOS セットアップで、スタンバイモードを標準（ACPI S1）に設定します。

〔TX7〕〔ML7〕
「Power」－「ACPI S3」: Disabled

〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕
「省電力」－「ACPI 設定」－「スタンバイモード」: 標準

〔CL7s〕
「詳細」－「省電力設定」－「ACPI 設定」: 標準

〔CX7〕
「省電力」－「スタンバイモード（ACPI)」: 標準

POINT

- 上記操作を行うと、電源管理の設定がご購入時の状態に戻ります。設定を変更していた場合は、「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」で、再設定してください。
- 〔SL7〕〔CL7〕をお使いの場合、増設するグラフィックスカードによっては、マルチモニタ使用時に、BIOS セットアップの「省電力」－「ACPI 設定」－「ディスプレイアダプタの初期化」－「使用する」に設定していると、スタンバイ状態から復帰できなくなることがあります。その場合は、「使用しない」に設定してください。
- 〔CX7〕の場合、BIOS セットアップの「省電力」－「スタンバイモード（ACPI)」を「高度」に設定している場合は、BIOS セットアップの「PnP/PCI」－「ディスプレイアダプタの初期化」を「使用する」に設定してお使いください。
- 〔SL7〕〔CL7〕の場合、BIOS セットアップの「省電力」－「ACPI 設定」－「スタンバイモード」を「高度」に設定している場合は、BIOS セットアップの「省電力」－「ACPI 設定」－「ディスプレイアダプタの初期化」を「使用する」に設定してお使いください。

省電力の設定

■「電源オプションのプロパティ」での設定

Windows の「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」で、本パソコンの電源を管理することができます。
また、「コントロールパネル」ウィンドウに「電源オプション」アイコンがない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてください。

■ 設定を変更する

□「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、省電力機能が働くまでの時間を設定します。
スタンバイするまでの時間は「システムスタンバイ」で設定してください。
「休止状態」タブで休止状態を選択した場合、休止状態までの時間は「システム休止状態」で設定してください。

□「詳細」タブ

電源スイッチを押したときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時には、電源を切るように設定されています)。
次のように設定できます。

- 電源スイッチを押したときの状態：「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
- スタンバイからレジュームするときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させる：「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」

□「休止状態」タブ

本パソコンを一時停止するときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するかどうかを設定します。
「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をクリックして☑にすると、「詳細」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できるようになります。

４ 仮想メモリを設定する

ここでは、仮想メモリ（ページングファイル）の設定方法を説明します。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量がないときは、別のドライブに設定を行ってください。
仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。
　初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍
　最大サイズ：初期サイズの 2 倍
ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルにできなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ＋ 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の容量が必要です。

1. Administrator グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「詳細」タブをクリックし、「パフォーマンスオプション」をクリックします。
   「パフォーマンスオプション」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
   「仮想メモリ」ダイアログボックスが表示されます。
5. ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
   システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
6. 「選択したドライブのページングファイルのサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更します。
7. 「設定」をクリックし、「OK」をクリックします。
8. 本パソコンを再起動します。

5 ファイルシステムを変換する

本パソコンのハードディスク上のシステムドライブは、FAT32 ファイルシステムでフォーマットされています。
FAT32 から NTFS に変換することで、セキュリティや信頼性を強化できます。
ファイルシステムを NTFS に変換する方法は、次のとおりです。

POINT

- NTFS に変換した場合、Windows NT 4.0、Windows 2000 以外のオペレーティングシステムからは、そのパーティションのファイルにアクセスできなくなります。

	Windows NT 4.0		Windows 2000	Windows 98/Me	Windows 95 OSR2 以降
	Service Pack4 以降	Service Pack3 以前			
Windows NT の NTFS	○	○	○	×	×
Windows 2000 の NTFS	○	×	○	×	×
FAT32	×	×	○	○	○
FAT16	○	○	○	○	○

- すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。

1 Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
「コマンドプロンプト」ウィンドウが表示されます。

3 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
convert  n:  /fs:ntfs  /v
```

(n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します)
ブートパーティションを変換する場合は、次のメッセージが表示されます（ブートパーティションが C ドライブの場合)。
「ファイルシステムの種類は FAT32 です。
CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N)?」

4 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押したあと、Windows を再起動します。
このとき、Windows は 2 回再起動します。

Memo

第 3 章

リカバリと再インストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「再インストール」について説明しています。

1　リカバリ概要 42
2　リカバリ操作 44
3　ソフトウェアの再インストール 50

1　リカバリ概要

Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、またはハードディスクの領域を変更したい場合は、リカバリを行います。

リカバリの概要

リカバリとは、「リカバリ CD-ROM」と「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合）を使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態（「プレインストール仕様の確認」（••▶ P.14））に戻す操作です。

リカバリは、大きく 2 種類に分かれます。

- ご購入時の状態に戻す
  現在のハードディスクの領域設定はそのままで、C ドライブをご購入時の状態に戻します。
- 領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す
  ハードディスクの領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻します。
  現在のハードディスク領域を変更したいとき、またはハードディスクを増設したときには、領域設定が必要になります。

リカバリの手順

リカバリは次の手順で行います。

■ ご購入時の状態に戻す場合

ハードディスクの領域設定は現在お使いの状態のまま、C ドライブのみをリカバリします。

1　リカバリ前の準備（••▶ P.44）

2　リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）
内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.44）
外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.45）

3　リカバリ終了後（••▶ P.49）

■ 領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す場合

リカバリ中に画面上で確認しながら、ハードディスクの領域を再設定します。
100MB 単位で 2 区画まで設定できます。

1 リカバリ前の準備（••▶ P.44）

2 リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）
内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.46）
外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合（••▶ P.47）

3 リカバリ終了後（••▶ P.49）

留意事項

- リカバリやハードディスクの領域の変更を行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
- 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」以外を選択してリカバリを行った場合、D ドライブが領域設定されます。リカバリ前に必要なデータを必ずバックアップしてください。
- リカバリを行うと、C ドライブは FAT32 に設定されます。C ドライブを NTFS に変換していた場合は、リカバリ後再度 NTFS に変換してください（••▶ P.39）。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらをいったん取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- リカバリを終えてセットアップが終了するまで、LAN　ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- カスタムメイドオプションのアプリケーションはリカバリされません。
- CD-ROM ドライブなしモデルをお使いの方は、リカバリには SCSI カードを増設し、外付けの CD-ROM ドライブを接続する必要があります。あらかじめご用意ください。

2　リカバリ操作

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」の方法を説明します。

POINT

- リカバリに関する留意事項（••▶ P.43）をよくお読みのうえ、リカバリを行ってください。

リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の操作を行ってください。

■ 外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合

1. リカバリ CD-ROM 起動ディスクの準備を行います（••▶ P.12）。
2. 本パソコンに CD-ROM ドライブを接続します。

■ BIOS 設定について

BIOS の設定をご購入時の設定に戻します（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

POINT

- BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。
- 〔TX7〕のカスタムメイドオプションでスマートカードリーダ／ライタを選択している場合、BIOS セットアップで次の項目を設定してください。
  「Advanced」－「Peripheral Configuration」－「Serial2」: Disabled

リカバリ方法（ご購入時の状態に戻す）

本パソコンをご購入時の状態に戻します。ハードディスクの領域は変更されません。

POINT

- リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。ご注意ください。

■ 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM 1/3」「リカバリ CD-ROM 2/3」

1. 「リカバリ CD-ROM 1/3」をセットします。
2. 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
メニューが表示されます。

4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。

5 【Page　Up】【Page　Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

6 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」が反転表示されていることを確認して【Enter】キーを押します。
確認の画面が表示されます。

POINT

- ハードディスクの領域を設定し直してリカバリしたい場合は、「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択してください。画面を見ながら区画を任意に設定し、リカバリできます（••▶ P.46）。

7 【Y】キーを押します。
しばらくすると「NORTON Ghost™」の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。「Insert next media and press enter to continue...」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM 2/3」をセットし、しばらくしてから【Enter】キーを押します。
リカバリが終了すると「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

8 CD-ROM を取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

9 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.49）。

■ 外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。

- 「リカバリ CD-ROM 1/3」「リカバリ CD-ROM 2/3」
- 準備した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（••▶ P.12）

1 「リカバリ CD-ROM 1/3」と「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 【Page　Up】【Page　Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

4 「ご購入時の状態に戻す（推奨）」が反転表示されていることを確認して【Enter】キーを押します。
確認の画面が表示されます。

POINT

- ハードディスクの領域を設定し直してリカバリしたい場合は、「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択してください。画面を見ながら区画を任意に設定し、リカバリできます（••▶ P.46）。

5 【Y】キーを押します。
しばらくすると「NORTON Ghost™」の画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。「Insert next media and press enter to continue...」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM 2/3」をセットし、しばらくしてから【Enter】キーを押します。
リカバリが終了すると「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

6 フロッピーディスクとCD-ROMを取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

7 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.49）。

リカバリ方法（領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す）

ハードディスクの領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻します。
リカバリ中に画面で確認しながら、100MB 単位で 2 区画までの領域を設定できます。

POINT

- ハードディスクの領域の設定を行うと、Cドライブおよび Dドライブのファイルはすべて削除されます。ご注意ください。

■ 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。
●「リカバリ CD-ROM 1/3」「リカバリ CD-ROM 2/3」

1 「リカバリ CD-ROM 1/3」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
メニューが表示されます。

4 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
「リカバリ CD-ROM」画面が表示されます。

5 【Page　Up】【Page　Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

6 「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
領域の設定方法により、ここからの操作は異なります。

7 領域の設定方法により、次の操作のどちらかを行ってください。

重要

▶ 領域を変更すると、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

・「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
C ドライブの容量を任意に設定してください。【←】【→】キーを押すと、100MB 単位で、領域を設定できます。
その他の設定については、次を参考にしてください。
・ハードディスクを 1 つの区画として設定する
ハードディスク全体をC ドライブとして設定するかどうか切り替えることができます。
切り替えるには【P】キーを押し、項目のチェックマークを確認します。
領域を設定したら、【Enter】キーを押します。

・「領域をご購入時の状態にして戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
ハードディスク内の領域が、ご購入時の設定となります。

8 【Y】キーを押します。
領域の設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

9 【Enter】キーを押します。
本パソコンが再起動します。
「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。

10 CD-ROM ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。
C ドライブをフォーマットしたあと、ファイルのコピーが始まります。

11 「Insert next media and press enter to continue...」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM 2/3」をセットし、しばらくしてから【Enter】キーを押します。
ファイルのコピーが終了すると、「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

12 CD-ROM を取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

13 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.49）。

■ 外付け CD-ROM ドライブをお使いの場合

次のものを用意してください。
- 「リカバリ CD-ROM 1/3」「リカバリ CD-ROM 2/3」
- 準備した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（••▶ P.12）

1 「リカバリ CD-ROM 1/3」と「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 【Page　Up】【Page　Down】キーで説明をスクロールして内容を確認し、【Y】キーを押します。

4 「領域を設定したあと、ご購入時の状態に戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
領域の設定方法により、ここからの操作は異なります。

5 領域の設定方法により、次の操作のどちらかを行ってください。

重 要

- 領域を変更すると、ハードディスク内のすべてのデータが失われます。

・「領域を任意に設定して戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
C ドライブの容量を任意に設定してください。【←】【→】キーを押すと、100MB 単位で、領域を設定できます。
その他の設定については、次を参考にしてください。
・ハードディスクを 1 つの区画として設定する
ハードディスク全体を C ドライブとして設定するかどうか切り替えることができます。
切り替えるには【P】キーを押し、項目のチェックマークを確認します。
領域を設定したら、【Enter】キーを押します。
・「領域をご購入時の状態にして戻す」を選択し、【Enter】キーを押します。
ハードディスク内の領域が、ご購入時の設定となります。

6 【Y】キーを押します。
領域の設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

7 【Enter】キーを押します。
本パソコンが再起動します。
C ドライブがフォーマットされたあと、ファイルのコピーが始まります。

8 「Insert next media and press enter to continue...」と表示されたら、「リカバリ CD-ROM 2/3」をセットし、しばらくしてから【Enter】キーを押します。
ファイルのコピーが終了すると、「復元作業が正常に終了しました。」と表示されます。

9 フロッピーディスクと CD-ROM を取り出してから、本パソコンの電源を切ります。

10 以降、「リカバリ終了後」を参照して操作を行ってください（••▶ P.49）。

リカバリ終了後

本パソコンの電源を切ったあと、以下の操作を行ってください。

1. **周辺機器が取り付けられている場合は、すべて取り外します（カスタムメイドオプションを除く）。**
2. **本パソコンの電源を入れます。**
3. **以降、第１章を参照して Windows のセットアップを行ってください（••▶ P.8）。**

標準の LAN をお使いの方は、以上でリカバリは終了です。
セキュリティ LAN を搭載している場合は、「FMV-1803S セキュリティ対応 LAN Driver CD-ROM」の「Readme.txt」をご覧になり、セキュリティ LAN および Packet Protect の設定を行ってください。
〔TX7〕をお使いの場合は、リカバリ CD-ROM の「¥Pktpt¥Pktpt.pdf」をご覧ください。

セットアップ後、必要に応じてソフトウェアをアンインストールしてください（••▶ P.23）。
また、必要に応じてドライバ、添付アプリケーションまたはカスタムメイドオプションのアプリケーションをインストールします。

3 ソフトウェアの再インストール

一部のドライバおよびアプリケーションの再インストール方法を説明します。

重 要

- 添付の「ドライバーズ CD」には、機種によっては使用できないソフトウェアも含まれています。本書を参照し、正しいソフトウェアを使用してください。誤ったソフトウェアをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。
  なお、「ドライバーズ CD」の「Indexcd.htm」もご覧ください。

ドライバの再インストール

リカバリ後、ドライバを再インストールする必要はありません。何らかの理由でドライバの再インストールが必要な場合のみ、必要なドライバを再インストールしてください。
ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。
インストール手順は次の表の場所にあります。

ドライバ	機種	インストール手順の保存場所とファイル名
IDE ドライバ	〔SL7〕〔CL7〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥Idedrv¥Inst_2k.txt
ディスプレイドライバ	〔TX7〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥Atirdeon¥Install.txt
	〔SL7e〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥Atigl¥Ragr128_2k¥Install.txt
	〔CL7s〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥Kl133¥Install.txt
	〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕〔CX7〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥I810e¥Install.txt
サウンドドライバ	〔TX7〕〔ML7〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥SndMax¥Install.txt
	〔CX7〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥Cs4281¥Crystal¥Inst2000.txt
	〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥Cs4299¥Install.txt
LAN ドライバ	〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CX7〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥I8255x¥Install.txt
	〔CL7s〕〔ML7〕	「ドライバーズ CD」内の ¥W2k¥Rtl8139¥Install.txt
RAID ドライバ	IDE-RAID モデル	「ドライバのバックアップ」（••▶ P.13）で作成したバックアップディスク内の Readme.txt

この表以外のドライバについては、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の「Readme.txt」または「Install.txt」をご覧ください。

プレインストールソフトの再インストール

ここでは、ご購入時にインストールされているソフトウェアのインストール方法について記述しています。アンインストールしたソフトウェアを再度インストールする場合のみ、次の方法でインストールしてください。

POINT

- カスタムメイドオプションのアプリケーションをインストールする方法は、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

■ Windows 2000 Service Pack1 のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
3. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   c:¥support¥sp¥sp1network.exe
4. 「使用許諾」を読み、「同意します」をクリックし、「インストール」をクリックします。

このあとは、メッセージに従ってインストールを完了してください。

POINT

- Windows 2000 のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
  1. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
  2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

■ Windows 環境調査ツール（FM Advisor）のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥w2k¥fmadv¥advisor¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ Acrobat Reader のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥w2k¥ac¥acrobat¥ar405jpn.exe
5. 「次へ」を 2 回クリックします。
6. 「情報」で「OK」をクリックします。
7. 本パソコンを再起動します。

■ FMV 診断のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥w2k¥fmvdiag¥fmv505b¥disk1¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

POINT

- インストール後、「スタート」メニューに「FMV 診断」が登録されない場合があります。この場合は、「C:¥Fjuty¥Fmvdiag¥Fmvdiag.exe」を直接起動するか、ショートカットを作成してください。

■ Encryption Pack のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「リカバリ CD-ROM 3/3」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥encrpack¥encpack.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ DirectX8.0 のインストール

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「リカバリ CD-ROM 3/3」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥dx8¥dx80ntopk.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ RAID ユーティリティのインストール（IDE-RAID モデルのみ）

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
4. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
   [CD-ROMドライブ]:¥w2k¥raid¥uty¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

Memo

第4章

困ったときに

4

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1　こんなときには 56
2　それでも解決できないときは 63
3　その他の留意事項 66

1　こんなときには

ここでは、Windows の使用時に直面する問題について、Q&A 形式でまとめています。また、トラブルが発生したときや困ったときの参照先を説明しています。

トラブル発生時の参照先

■ Windows に関して

添付の Windows のマニュアルか、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプをご覧ください。

■ ハードウェアに関して

『ハードウェアガイド』をご覧ください。

トラブルシューティング

□オンラインヘルプやエラーメッセージの対処方法を参照しても原因がわからない

- 本パソコンでは、次のパソコン診断アプリケーションを用意しています。

  Windows 環境調査ツール（FM Advisor）

  FM Advisor の使用方法は、次のとおりです。

  1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。
     調査結果が表示されます。

  FMV 診断

  FMV 診断の使用方法は次のとおりです。

  1. 「スタート」ボタン→「FMV 診断」の順にクリックします。
     このあとはメッセージに従って操作してください。

POINT

- 起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。
- スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- フロッピーディスクドライブを診断する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットしてください。
- CD-ROM ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。

□Windows が起動しなくなった

● **「ドライバース CD」に入っている「QT-PC/U」という診断プログラムでパソコンの診断をしてください。**

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモなどに控えておき、お問い合わせの際にお知らせください。

診断時間は通常 5 ～ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

POINT

▶ 「QT-PC/U」によるパソコンの診断は、内蔵 CD-ROM ドライブから実行できます。外付け CD-ROM ドライブからは、実行できません。

1. 「ドライバース CD」をセットします。
2. 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。
3. 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。
   メニューが表示されます。
4. CD-ROM を選択し、【Enter】キーを押します。
   自動的に診断が開始されます。診断は 6 項目について行われ、各項目の診断結果が画面の「STATUS」の部分に表示されます。
   ・診断でエラーが発生した場合は、「STATUS」部に「ERROR」と表示され、画面の「Message Display」部に 8 桁のエラーコードが表示されます。
   お問い合わせの際は、表示されたエラーコードをお知らせください。
   ・診断でエラーが発生しなかった場合は、「STATUS」部に「NO ERROR」と表示されます。
5. 診断が終了し、画面の「Message Display」部に次のように表示されたら、CD-ROM を取り出します。
   Eject CD-ROM.
   Press Ctrl + ALT + DEL for power off
6. 【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押します。
7. 次のように表示されたら、【Enter】キーを押します。
   [Ctrl+ALT+DEL Push] -> Power off execute ok (ENTER)?
   約 5 秒後に電源が切れます。
   ただし、機種によっては次のように表示され、自動的に電源が切れない場合があります。
   Please power off manually
   この場合は、パソコン本体の電源を切ってください。

● **上記の操作でエラーが発生しなかった場合は、「リカバリと再インストール」（••▶ P.41）をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻してください。**

それでも解決しない場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にご連絡ください。

□プログラムが動かなくなってしまった

● **次の手順でプログラムを終了させてください。**

1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
   「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「タスクマネージャ」をクリックします。
   「Windows タスクマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「アプリケーション」タブをクリックします。

4. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
   プログラムが強制終了されます。
5. 「Windows タスクマネージャ」ダイアログボックスを閉じます。

POINT

- プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- プログラムを強制終了した場合は、次の手順でディスクをチェックすることをお勧めします。
  1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
  2. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
  3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
  4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
  5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックし、C ドライブを検査する場合は、「次回のシステム再起動時に、このディスクの検査をスケジュールしますか？」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
  6. 「OK」をクリックします。

□マウスが使えないため、Windows を終了できない

- **キーボードを使って Windows を終了できます。**
  1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
     「スタート」メニューが表示されます。
  2. 【↑】【↓】キーで「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押します。
     「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  3. 【↑】【↓】キーで「シャットダウン」を選択し、【Enter】キーを押します。
     Windows が終了します。

  マウスが故障している場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元に連絡してください。

□ディスプレイドライバ、サウンドドライバ、LAN ドライバが正しく動作しない

- **Windows が起動されないときは、Safe モードで起動してから、ドライバをインストールしてください。**
  手順は次のとおりです。
  1. 本パソコンの電源を入れます。
  2. 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。
     「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。
  3. 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。
  4. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
     「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
  5. 「OK」をクリックします。
- **各ドライバをインストールし直す必要があります。**
  お使いの機種に対応する各ドライバは、「デバイス一覧」（••▶ P.16）でご確認ください。インストール方法については、「ドライバの再インストール」（••▶ P.50）をご覧ください。

□PC カードが使えない

- **PC カードのドライバはインストールされていますか？**
  Windows 2000 にあらかじめ登録されていない PC カードの場合は、PC カードに添付されているドライバ（Windows 2000 対応のもの）をインストールする必要があります。PC カードに添付のマニュアルをご覧ください。
- **IRQ リソースは足りていますか？**
  IRQ リソースが不足する場合があります。次の操作を行ってください。
  1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
  2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
     「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  3. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
     「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
  4. お使いにならないデバイス（プリンタなら「ポート（COM と LPT)」など）をダブルクリックします。
  5. お使いにならないデバイス名（プリンタなら「プリンタポート（LPT1)」）を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
  6. 「全般」タブの「デバイスの使用状況」を「このデバイスを使わない（無効）」に設定します。
  7. 「OK」をクリックします。
  8. すべてのダイアログボックスを閉じます。
- **BIOS セットアップで次の通り設定されているか確認してください。**
  「起動」－「起動デバイスの優先順位」－「Intel UNDI, PXE-2.0」：スキップ

□アプリケーションのインストールが正常に行われない

- **ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。**
  ウイルス検索ソフトを終了させ、アプリケーションのインストールができるか試してください。
  ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

□〔CX7〕で光磁気ディスクを使用したい

- **PC カード（SCSI）接続の光磁気ディスクドライブを使用できます。**

□光磁気ディスクドライブをスーパーフロッピー形式で使用したい

- **光磁気ディスクドライブの設定は必要ありません。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットするには、「光磁気ディスク・ユーティリティ」を使用してください。〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕（IDE-RAID モデルは除く）はプレインストールされています。〔CL7s〕〔CX7〕および IDE-RAID モデルはインストールが必要です（••▶ P.22）。なお、「光磁気ディスク・ユーティリティ」は、SCSI 規格／ ATAPI 規格の光磁気ディスクドライブで使用できます（〔CL7s〕〔CX7〕および IDE-RAID モデルは SCSI 規格の外部機器のみ）。**
  なお、光磁気ディスク・ユーティリティの使用方法については、「ドライバーズ CD」の「¥W2k¥Moformat¥Readme.txt」をご覧ください。

□ キーボードの NumLock がオンの状態で、Windows を起動したい

- Windows 上で【NumLock】キーを押し、NumLock をオンにします。次回起動時からは、NumLock がオンの状態で Windows が起動されます。

□ Windows 95 や MS-DOS のように、パソコン同士をシリアルケーブルで接続してデータをやりとりしたい

- RAS（Remote Access Service）の機能を使うことによって、シリアルケーブル接続でデータをやりとりできます。
  1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
  2. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
     「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
  3. 「電話とモデムのオプション」アイコンをダブルクリックします。
  4. 所在地情報を入力するダイアログボックスが表示された場合は、所在地の設定を行い「OK」をクリックします。
     「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスが表示されます。
  5. 「モデム」タブをクリックし、「追加」をクリックします。
     「ハードウェアの追加と削除」ダイアログボックスが表示されます。
  6. 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、「次へ」をクリックします。
  7. 「製造元」から「(標準モデムの種類)」を、「モデル」から「2 台のコンピュータ間の通信ケーブル」を選択し、「次へ」をクリックします。
  8. 「選択したポート」をクリックし、表示されている COMn（n には数字が表示されています）をクリックして、「次へ」をクリックします。
  9. 「完了」をクリックします。
  10. 「電話とモデムのオプション」ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

□ ログオン時のパスワードに、大文字、小文字の区別はありますか？

- あります。

□ 自動ログオン（パスワード入力なしでログオンすること）に設定したい

- Windows セットアップ時に「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」を選択した場合は、ログオン時に「Windows へログオン」ダイアログボックスが表示され、パスワードの入力を求められます。次の手順で自動ログオンが可能になります。なお、自動ログオンは、本パソコンがネットワーク上にないか、ドメインのないネットワークに接続している場合に設定できます。
  1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
  2. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
     「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
  3. 「ユーザーとパスワード」アイコンをダブルクリックします。
     「ユーザーとパスワード」ダイアログボックスが表示されます。
  4. 自動ログオンするユーザー名をクリックし、「このコンピュータを使うには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります」のチェックを外します。
  5. 「OK」をクリックします。
     「自動ログオン」ダイアログボックスが表示されます。
  6. 「パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

POINT

- 自動ログオン機能を使用した場合、正規ユーザー以外が本パソコンを使用したり、ネットワークにログインしたりすることが可能になります。セキュリティ上の問題が発生する場合、自動ログオン機能を使用しないでください。
- ネットワーク環境で自動ログオン機能を使用する場合、起動時にサーバに接続できない場合があります。この場合は、サーバへの再接続を行ってください。

□Windows NT のように【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押してからログオンしたい

● 次の手順で設定してください。

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
3. 「コントロールパネル」ウィンドウの「ユーザーとパスワード」アイコンをダブルクリックします。
   「ユーザーとパスワード」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「詳細」タブをクリックします。
5. 「ブート時のセキュリティ設定」の「ユーザーがログオンする前には必ず Ctrl+Alt+Del キーを押す」をチェックし、「OK」をクリックします。

POINT

- 自動ログオン機能を有効にしている場合は自動ログオン機能が優先されるため、電源を入れたときや再起動したときには、キー入力は求められません。スタンバイや休止状態からの復帰時にのみキー入力を求められます。

□マウスポインタのデザインを変えたい

● 次の手順で設定してください。

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「マウス」アイコンをダブルクリックし、「ポインタ」タブで設定してください。

□リカバリ後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない

● 次の手順で設定してください。

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
   「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
5. 「モニタ」をダブルクリックします。
6. 「プラグアンドプレイモニタ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
7. 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
   「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
8. 「次へ」をクリックします。

9. 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」をクリックし、「次へ」をクリックします。
10. 「場所を指定」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
11. 「製造元のファイルのコピー元」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
    [CD-ROM ドライブ]:¥w2k¥dispinf¥nonlogo
12. 「次へ」をクリックします。

POINT

▶ 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されたら、「はい」をクリックしてください。

「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」ダイアログボックスが表示されます。

13. 「完了」をクリックします。
14. すべてのダイアログボックスを閉じます。

□NTFS 区画のドライブに CHKDSK コマンドを実行すると、エラーメッセージが表示される

● 次の手順で CHKDSK コマンドを行ってください。

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
2. プロンプトから次のように入力し、【Enter】キーを押します。
   chkdsk /f [NTFS 区画のドライブ]

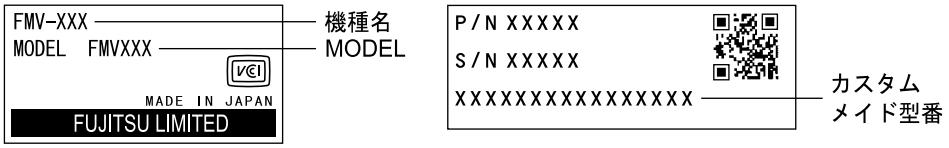
この手順を行ったあとは、オプションなしの CHKDSK コマンドを実行してもエラーメッセージは表示されません。

2　それでも解決できないときは

下記の連絡先へお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名／ MODEL ／カスタムメイド型番を確認し、「お問い合わせ前の確認シート」（••▶ P.65）に環境とトラブル状況などを記入してください。

■ 機種名／ MODEL ／カスタムメイド型番の表記場所

パソコン本体に貼られているラベルに記載されています。



■ 連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	ご購入元
故障かなと思われたとき	「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」※ またはご購入元
FM シリーズの技術的なご質問・ご相談	「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」※
本パソコンにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	「お問い合わせ一覧」（••▶ P.64）

※：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」の連絡先は、添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください。

■ 情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

富士通パソコン FAX サービス（カタログ、Q&A 情報）	043-299-3642（千葉） 06-6949-3270（大阪）
インターネット（製品の技術情報、Q&A 情報）	富士通パソコンホームページ FM WORLD.NET http://www.fmworld.net/

お問い合わせ一覧

本パソコンに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2001 年 4 月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください。

- **はじめよう！インターネット（@nifty）**
  - ・入会／ @nifty サービス全般
    ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-816-042
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5444-2902）
    E-mail：feedback@nifty.com
    URL：http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm
  - ・パスワード再発行／各種手続き／解約
    ニフティ株式会社 @nifty カスタマーセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-842-210
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
    E-mail：feedback@nifty.com
- VirusScan Ver.4.5
  日本ネットワークアソシエイツ株式会社
  テクニカルサポートセンター
  9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00（土日、祝祭日を除く）
  電話：03-3379-7770
  URL：http://www.nai.com/japan/
- Adobe Acrobat Reader4.05
  ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。
- **アプリケーション（カスタムメイドオプション）**
  各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
- **その他　FM シリーズの技術的なご質問・ご相談**
  富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口
  （添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください）

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。
なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

お問い合わせ前の確認シート

■ お客様の環境

お使いの パソコンの 機種は？	機種名：FMV-	MODEL：FMV
	カスタムメイド型番：	
	購入日：	購入店：

メモリの容量は？	本体標準：　　MB	
	増設：　　MB	［メーカー：　　］ ［型番：　　］

増設した 周辺機器は？	種類	型番号	メーカー

お使いの ソフトウェアは？	ソフトウェア名	バージョン／レベル	メーカー
	Windows 2000 Professional	5.00.2195 （Service Pack 1　）	―

■ トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに 起こりましたか？	
エラーメッセージは 表示されましたか？ その内容は何ですか？	
以前は問題なく 動作していましたか？	・以前は動作した ・今回初めて試した ・以前から動作しない

3 その他の留意事項

本パソコンをお使いになるうえでの留意事項を記載しています。

■ Windows 2000 の CD-ROM を要求された場合

ドライバのインストール時などに、「Windows 2000」の CD-ROM を要求される場合があります。このときは、「c:¥support¥i386」と指定してください。ファイルを指定できないときは、あらかじめ「リカバリ CD-ROM3/3」を CD-ROM ドライブにセットしてからやり直してください。

重 要

- 上記フォルダは削除しないでください。削除すると、Windows コンポーネントの追加などができなくなります。

■ 本パソコンで使用するソフトウェア

古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本パソコンおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本パソコンに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版を入手して使用してください。
また、本パソコンに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。

■ 他の OS を使うには

他の OS を使うには、いくつかの設定を行う必要があります。また機種により使用できない OS もあります。詳しくは、富士通パソコンホームページ FM WORLD.NET（http://www.fmworld.net/）をご覧ください。
なお、インターネットをご利用になれない場合は、ご購入元にご確認ください。

■ Acrobat Reader について

市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本パソコンにプレインストールされている Acrobat Reader 4.05 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。
バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 4.05 をインストールし直してください（••▶ P.52）。

■ ネットワーク運用時の省電力機能

ネットワーク環境下で省電力状態へ移行すると、お使いになるアプリケーションによっては、復旧後に不具合が発生する場合があります。
不具合が発生した場合は、本パソコンを再起動してください。
また、通信中は省電力状態へ移行させないでください。

■ LAN 着信によるレジューム（Wakeup On LAN）機能

Wakeup On LAN 機能は、スタンバイ状態や休止状態からの復帰に使用します。
ネットワーク環境下で Wakeup On LAN 機能を使用する場合は、次の設定を行ってください。
ローカルアドレス運用時、スタンバイ、休止状態、シャットダウンからの復帰は行えません。

1. Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
3. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
   「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
4. 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
5. 次のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   ・〔TX7〕〔SL7e〕〔CX7〕
   「Intel 8255x -based PCI Ethernet Adapter (10/100)」
   ・〔SL7〕〔CL7〕
   「Intel(R) PRO/100 VM Desktop Adapter」
   ・〔CL7s〕〔ML7〕
   「Realtek RTL 8139(A/B/C/8130)PCI Fast Ethernet NIC」
6. 「電源の管理」タブをクリックします。
7. 次の 2 つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。
   ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする
   ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする

■ ネットワーク使用時の留意事項

次の LAN デバイスを複数使用したネットワーク運用は行えません。

- 2 枚の LAN カード
- パソコン本体の内蔵 LAN デバイスと LAN カード

■ 休止状態に関する留意事項

次の状態で休止状態に移行させると、休止状態にならない／休止状態から復帰しない／復帰後に正常に動作しない／データが消失するなどの問題が発生することがあります。

- Windows の起動中／シャットダウン処理中
- ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中）
- 動画の再生中や音楽の録音、再生中
- モデムやネットワークの通信中
- マウスの操作中
- プリンタ印刷中
- 休止状態に対応していないオプション（拡張カード、周辺機器）を増設している場合

■ ディスプレイドライバ

- 「ドライバーズ CD」内のご使用になるディスプレイドライバのフォルダに、Readme.txt などの説明ファイルが用意されています。その他の注意事項を記載していますので、あわせてご覧ください。
- お使いのアプリケーションによっては、正しく表示されない場合があります。この場合は、アプリケーションが Windows 2000 に対応しているか、メーカーにお問い合わせください。
- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するアプリケーションによって異なります。特に 3D グラフィックスを使用する場合は、大量のメモリを消費するため、性能が低下することがあります。
- 解像度を変更した場合、一部のアプリケーションでウィンドウが画面からはみ出すことがあります。この場合は、ウィンドウをドラッグして正しい位置に移動するか、解像度を元に戻してください。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイおよびシステム休止状態の設定は行わないでください。
- アプリケーションをお使いのとき、アイコン表示やウィンドウの一部などが画面に残ったり、アプリケーションのウィンドウ内で再描画されずにゴミが残っているように見えたりする場合は、次の手順でウィンドウの再表示を行ってください。
  1. ウィンドウの右上の最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
  2. タスクバーの最小化されたアプリケーションを右クリックし、「元のサイズに戻す」をクリックすると、再表示されます。
- 本パソコンにインストールされているディスプレイドライバは、DirectX8.0 対応です。DirectX1、DirectX2、DirectX3、DirectX5、DirectX6、DirectX7 のランタイムはインストールできません。必ず、DirectX8.0 のランタイムをお使いください。
- 画面表示の開始時やディスプレイドライバのインストール時、表示モードが切り替わるとき（Windows の起動、終了画面やスタンバイ状態およびシステム休止状態から復帰するときなど)、一時的に画面が乱れたり横線が見えたりする場合がありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- 〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕〔CX7〕の場合、256 色 / True Color（24 ビット）の設定では、Direct3D のハードウェアアクセラレーション（HAL）はサポートしていません。色数を 256 色 / True Color（24 ビット）に設定した状態で Direct3D 対応のアプリケーションを表示させるとソフトウェアでの実行となるため、表示速度や表示画質に問題が発生する場合があります。この場合は、色数を High Color（16 ビット）に設定してください。
- 〔TX7〕〔SL7e〕〔CL7s〕の場合、256 色の設定では、Direct3D のハードウェアアクセラレーション（HAL）はサポートしていません。色数を 256 色に設定した状態で Direct3D 対応のアプリケーションを表示させるとソフトウェアでの実行となるため、表示速度や表示画質に問題が発生する場合があります。この場合は、色数を High Color（16 ビット）または True Color（32 ビット）に設定してください。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。
- アプリケーション（ゲームソフトを含む）が正常に動作しないときは、色数の設定を変更するか、次の操作を行うことで、正常に動作する場合があります。
  1.「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
  2.「トラブルシューティング」タブをクリックします。
  3.「ハードウェアアクセラレータ」を「なし」に設定し、「OK」をクリックします。

4. 本パソコンを再起動します。

なお、上記の手順を行っても、アプリケーションによっては性能低下や音声ノイズなどの問題が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。

- 〔TX7〕〔SL7e〕の場合、次の操作を行うと文字がつぶれて見えることがあります。
  ・「コマンドプロンプト」をウィンドウ状態で使用中、「US」モードに変更→フルスクリーンに変更→「JP」モードに変更、の順に操作
- 〔TX7〕〔SL7e〕の場合、「メモ帳」などで Fixedsys フォントを使用すると、「太字」および「太字斜体」を選択してもフォントが正しく表示されないことがあります。
- 〔TX7〕〔SL7e〕の場合、「コマンドプロンプト」がフルスクリーンの状態ではスタンバイから復帰できないことがあります。フルスクリーンで「コマンドプロンプト」を使用する場合は、事前にスタンバイ設定を「なし」に設定してください。
- 〔TX7〕〔SL7e〕の場合、OpenGL スクリーンセーバーを選択し、そのまま「画面のプロパティ」ダイアログボックスを左右にドラッグすると、プレビューウィンドウがデスクトップに残ることがあります。
- 〔TX7〕の場合、Sync On Green に対応したディスプレイでは、ディスプレイの省電力機能が正しく動作しないことがあります。ディスプレイが Sync On Green に対応しているかどうかはメーカーにお問い合わせください。
- 〔SL7〕〔CL7〕〔ML7〕〔CX7〕の場合、「画面のプロパティ」において、ビデオメモリの容量が正しく表示されませんが故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- 〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕〔CX7〕の場合、「画面のプロパティ」ダイアログボックスで色数を変更する（特に 256 色に変更する）と、次の現象が発生する場合があります。
  ・スクリーンセーバーから復帰したときに、背景の色が反転して表示される
  ・アプリケーションによっては、色が正しく表示されない
  ・アプリケーションによっては、ウィンドウを切り替えたときに異常な色で表示される
- 〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕でデジタルディスプレイをご使用の場合、リフレッシュレートで「60 ヘルツ」以上を選択できることがありますが、実際に出力されるリフレッシュレートは「60 ヘルツ」です。
- 〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕で、デジタルディスプレイをご使用の場合、コマンドプロンプトをフルスクリーン／ US モードにすると、ディスプレイの中央に画面が表示されなかったり、「UNSUPPORTED MODE SEE USER'S MANUAL」と表示されることがあります。この場合は、「コマンドプロンプトのプロパティ」ダイアログボックスの「レイアウト」タブで「画面バッファのサイズ」の「高さ」を変更すると本現象が発生しなくなることがあります。
- 〔CX7〕の場合、リフレッシュレートで「60 ヘルツ」以上を選択できることがありますが、実際に出力されるリフレッシュレートは「60 ヘルツ」です。
- 〔CX7〕でコマンドプロンプトをフルスクリーン／ US モードでお使いになる場合、ディスプレイの中央に画面が表示されなかったり、「UNSUPPORTED MODE SEE USER'S MANUAL」と表示されることがあります。この場合は、「コマンドプロンプトのプロパティ」ダイアログボックスの「レイアウト」タブで「画面バッファのサイズ」の「高さ」を変更すると本現象が発生しなくなることがあります。
- 〔SL7e〕の場合、「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで、OpenGL スクリーンセーバーを表示したまま、Office アシスタントを表示すると、Office アシスタントが点滅することがあります。この場合、画面のプロパティを閉じてください。
- 〔TX7〕〔SL7e〕の場合、モニタの設定で、「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外すと、すべてのリフレッシュレートが表示されますが、リフレッシュレートによっては正しく設定されないことがあります。

- 〔TX7〕〔SL7e〕で、DDC 機能のないモニタ（BNC 接続を含む）をお使いの場合には リフレッシュレートは 60Hz しか選択できません。
- 〔TX7〕〔SL7e〕で、「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで「3D パイプスクリーンセーバー」を表示中に、他のウィンドウを重ねると、画面が正しく表示されないことがあります。この場合は、「画面のプロパティ」を閉じてください。
- 〔TX7〕〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕で、マルチモニタの機能をお使いの場合、「3D パイプスクリーンセーバー」を使用すると、アプリケーションエラーや、表示が正しくされないことがあります。この場合、他のスクリーンセーバーをお使いください。
- 〔SL7e〕で、デジタルパネルとアナログモニタを同時にお使いの場合には、デジタルパネル側のリフレッシュレートしか選択できません。
- 〔SL7e〕で、デジタルパネルとアナログモニタを同時にお使いの場合には、デジタルパネルの最大解像度より大きな解像度には設定できません。
- 〔CL7s〕の場合、お使いのディスプレイの種類によっては、ディスプレイが自動的に検出されず、「画面のプロパティ」の設定タブで「既定モニタ」と表示される場合があります。

■ 表示されるメモリサイズ〔SL7〕〔CL7〕〔CL7s〕〔ML7〕〔CX7〕

「システムのプロパティ」ダイアログボックスで表示されるメモリサイズは、搭載メモリサイズより若干少なく表示されます。

■「管理ツール」の「コンポーネントサービス」の留意事項

「コンポーネントサービス」の「コンピュータ」はログオン後 10 分ほど経過してから開くようにしてください。
ログオン後すぐに「コントロールパネル」ウィンドウの「管理ツール」アイコンをダブルクリックし、「コンポーネントサービス」で「コンソールルート」の「コンポーネントサービス」の「コンピュータ」を開こうとすると、まれにアプリケーションエラーが起きることがあります。このエラーが起こると、本パソコンの動作が不安定になります。
この場合は、本パソコンを再起動してください。再起動後は問題なくお使いになれます。

■ 省電力設定について

省電力設定は、ユーザー別に設定できます。このため、Administrator でログオンした場合と他のユーザーでログオンした場合で設定が異なります。
必要に応じ、「コントロールパネル」ウィンドウの「電源オプション」で設定してください。

■ CD-ROM ドライブユニットの留意事項

「コントロールパネル」ウィンドウの「管理ツール」アイコンをダブルクリックし、「コンピュータの管理」で「記憶域」の「リムーバブル記憶域」の「物理的な場所」を表示した場合、CD-ROM ドライブユニットが 1 つしかないにもかかわらず 2 つ表示されることがあります。この場合は、赤い×印のついているドライブを選択し、「操作」メニュー→「削除」の順にクリックして削除してください。

■ Outlook Express のパスワードについて

Administrator でログオン時に、インターネット接続ウィザード中に設定したメールのパスワードが、Outlook Express に反映されません。
Outlook Express 起動後にメールのパスワードをもう一度設定してください。

■ インターネットに接続されていない環境でのオンラインサポートについて

インターネットに接続されていない環境では、オンラインサポートをご利用になることはできません。お手数ですがインターネットに接続してから実行してください。

富士通パソコンホームページ FM WORLD.NET：http://www.fmworld.net/

■ Windows 2000 Service Pack1 の留意事項

- Windows 2000 Service Pack1 をインストールする際に、Norton Anti Virus の Auto-Protect 機能が「Xmldso.cab」ファイルをウィルスとして認識する場合があります。
- Windows 2000 Service Pack1 をインストールすると、別売の周辺機器などに添付されているドライバが Windows 2000 の標準ドライバに置き換えられることがあります。この場合は、周辺機器などに添付されているドライバを再度インストールしてください。

■ RIS（Remote Install Service）を利用した Windows 2000 のインストールについて

RIS の機能使用して、Windows 2000 をインストールできます。インストールするには、本パソコンの BIOS 設定を変更したあと、LAN 経由で起動する必要があります。

なお、あらかじめ LAN 環境および RIS サーバを設定しておく必要があります。RIS の設定については、別途 Windows 2000 Advanced Server などのマニュアルをご覧ください。

1 次の BIOS 設定を変更します（••▶『ハードウェアガイド』参照）。

〔CL7s〕〔ML7〕は、設定を変更する必要はありません。

・〔TX7〕
「Advanced」－「Peripheral Configuration」－「LAN Remote Boot」：PXE

・〔SL7e〕〔SL7〕〔CL7〕
「起動」－「ネットワークサーバからの起動」：使用する

・〔CX7〕
「起動」－「起動デバイスの優先順位」：4.Intel UNDI,PXE-2.0

2 本パソコンを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キーを押し続けます。

メニューが表示されます。

4 「Intel UNDI, PXE-2.0 (build 078)」または「Boot Manage UNDI, PXE-2.0(build 082)」または「Realtek Boot Agent」または「LAN」を選択し、【Enter】キーを押します。

■ Microsoft(R) Office 2000 Professional ／ Microsoft(R) Office 2000 Personal をお使いの場合

初めて Office2000 をお使いになるときには、必ず Administrator グループのメンバーとしてログオンし、「Microsoft Office 2000 ユーザ情報」の設定を行ってください。その他のユーザーとしてログオンした場合、Office2000 は起動しません。
この場合は、「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。一覧から「Office」を選択し、「変更」をクリックします。表示された画面から「Office の修復」をクリックしてください。

■ OAK V8 ／ Japanist をお使いの場合

OAK V8、OASYS V8、Japanist を追加インストールした場合、Administrator グループのメンバー以外で初めてログオンすると、ダイアログボックスが表示されます。この場合は使用する状況に応じて選択し、「OK」をクリックしてください。

索引

A

ACPI 32
Acrobat Reader 14
　ーのインストール 52

D

DeskView 15
　ーのインストール 21
Direct X8.0 14
　ーのインストール 53
DirectCD 15
DMA の設定 19
DVD/CD-ROM ドライブ. 16

E

Easy CD Creator 15
Encryption Pack. 14
　ーインストール 52

F

Fast Check Monitoring Utility 15
FAT32 . . . . . 19, 39
FM Advisor 14, 56
　ーのインストール 51
FM-Menu 15
　ーのインストール 21
FMV 診断 14, 56
　ーのインストール 52

I

IDE ATA/ATAPI コントローラ 16
IDE ドライバのインストール 50
Internet Explorer 5.01 14

L

LAN 着信によるレジューム機能. 67
LAN ドライバのインストール. 50

M

Microsoft IME 2000 14
MODEL. 63

N

NTFS. 19, 39
NumLock 60

P

PCMCIA アダプタ 16

R

RAID ドライバのインストール. 50
RAID ユーティリティのインストール . .53

S

SCSI と RAID コントローラ 17

U

USB（Universal Serial Bus）
コントローラ 17

V

VirusScan 15, 26
　ーのインストール 21

W

Wakeup On LAN 機能. 67
Windows 2000 14
　ー Service Pack1 のインストール. . .51
　ーセットアップ 8
　ーの CD-ROM 66
Windows 環境調査ツール
（FM Advisor）. 14, 56
　ーのインストール 51
WinDVD 15

あ行

アンインストール 23
色数. 28
お問い合わせ前の確認シート 65

か行

解像度 28
カスタムメイド型番 63
仮想メモリを設定する 38
キーボード 17
機種名 63
休止状態 32
　－の留意事項 32
コンピュータ 17
コンピュータウイルス
　－の被害届け 27
　－を発見した場合 27

さ行

サウンドドライバのインストール 50
サウンド、ビデオ、および
ゲームコントローラ 17
自動ログオン 60
省電力 32
情報サービス 63
シリアルケーブル接続 60
スタンバイ 32
　－の留意事項 32

た行

他の OS 66
ディスクドライブ 17
ディスプレイ
　－アダプタ 18
　－ドライバのインストール 50
　－の設定 61
ドライバーズ CD 50
ドライブ構成 19
トラブルシューティング 56

な行

ネットワーク
　－ ID の設定 11
　－アダプタ 18
　－運用時の省電力機能 66
　－コンポーネントのインストール . . 11
　－使用時の留意事項 67
　－の設定 11

は行

はじめよう！インターネット
（@nifty） 15
　－のインストール 22
パスワード 60
光磁気ディスク 59
　－ドライブをスーパーフロッピー形式
　　で使用する 59
光磁気ディスク・
ユーティリティ 14, 15, 59
　－のインストール 22
ファイルシステムを変換する 39
富士通 3 モード
フロッピーディスクドライバ 14
プレインストール
　－仕様 14
　－ソフト 14
フロッピーディスク
　－コントローラ 18
　－ドライブ 18
ポート（COM と LPT） 18

ま行

マウスとそのほかの
ポインティングデバイス 18
マウスポインタのデザインを変える . . . 61
マルチモニタ機能 29

や行

ユーザー登録 12

ら行

リカバリ CD-ROM 起動ディスクを
準備する 12
リカバリ概要 42
連絡先 63

Memo

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本パソコンにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただいております。
なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
   お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本パソコンでのみ使用できます。なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
   お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1 部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
   本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
   (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
   本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
   ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
   (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
   お客様が本ソフトウェア（本パソコンに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本パソコンに添付されている媒体を本パソコンとは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
   お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 保証の範囲
   (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
   また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
   (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
   (3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
8. ハイセイフティ
   本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

   記

   原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

マイクロソフト製品サービスパック

Microsoft® Windows® をご利用のお客様がより安定したシステムを運用していく上で、マイクロソフト社はサービスパックを提供しております（http://www.microsoft.com/japan/）。
お客様は、最新のサービスパックをご利用いただくことにより、その時点でマイクロソフト社が提供する Microsoft® Windows® にて最も安定したシステムを構築できます。
したがいまして、当社としては、最新のサービスパックをご利用いただくことを基本的には推奨いたします。
ただし、お客様の環境によっては、サービスパック適用により予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前にはサービスパックの Readme.txt を必ずご確認ください。
また、万一、インストールに失敗したことを考慮し、システムのバックアップを取ることを推奨いたします。

FMV-717GTX7

FMV-611GSL7e/610GSL7e/610GSL7/6866SL7/6766SL7c

FMV-610GCL7/6866CL7/6766CL7c/6750CL7s

FMV-6766ML7c

FMV-6866CX7/6766CX7c

Windows® 2000 モデル
ソフトウェアガイド
B5FH-2821-01-01

発 行 日　2001 年 4 月
発行責任　富士通株式会社

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。